

## 特集「社会に浸透する情報システム」の編集にあたって

富澤 眞樹<sup>1,a)</sup>

情報システム論文は、理工学的な特定の分野を対象とするのではなく、実社会での組織や社会活動に対して新しいサービスや有用な仕組みを対象としている。このため論文には、そのシステムがどのような文脈で有効に働くのかを記述し、その上で新規性や有用性を示すことが必要である。「情報システムと社会環境」研究会（IS 研究会）では情報システム研究の普及と啓発に寄与すべく、2005 年以来、毎年情報システム論文の特集号を企画し、良質な論文を採録してきた。

本特集号では、過去の特集号と同様に、情報システムの分析・設計・構築・運用、情報やデータの管理などの理論と実践、情報システムと人間・組織・社会との相互関連、さまざまな組織における情報化ニーズをとらえた新しい情報システムの提案や実践的な開発事例など広範囲な対象の論文を募集した。

投稿された論文は 13 件と予定より少なかったが、幅広い分野から投稿されており、情報システム論文の特集号の意義を実感することができた。採択率は目標の 50% に対し、採録数は 4 件で 31% となり目標を下回ったが、十分な質の論文を掲載することができたと考えている。不採録となった論文には、興味深いテーマのものが多いので、完成度を高めて再投稿されることを期待している。

採録された論文は、情報システムの開発事例、情報システムの測定手法、旅行ルートの推薦手法、マイクロプログラムユーザのパーソナルデータの推定手法であり、募集のねらいどおり広範囲な対象の論文が採録できた。

情報システム論文は対象とする範囲がきわめて広いこともあり、論文としての有効性の評価や正確性を確保することが難しい。このような課題に対する 1 つの試みとして、IS 研究会では、情報システムの有効性評価手法として、量的評価と質的評価のガイドラインを公開している。本特集号では、質的研究論文の査読にあたり、査読者には「情報システム研究論文に対する査読の観点」という資料の閲覧を依頼し、査読基準の統一性を図っている。また、IS 研究会では、特集号への投稿を促す意図も含めて、質疑応答の時間を長めにとったセッションを企画するなど、投稿論文

の質・量の向上に向けて取り組んだ。今後も、執筆者が情報システム開発事例における新規性や有用性の示し方、量的・質的評価方法について、より具体的に学べる仕掛けを検討していきたい。これらの地道な活動が、情報システムの発展に寄与することを期待している。

最後に、本特集号の機会を与えてくれた論文誌編集委員会と、短い査読期間の中で丁寧に査読していただいた特集号編集委員、査読者各位、スケジュール管理を含めさまざまな支援をいただいた学会担当者に深謝いたします。

「社会に浸透する情報システム」特集号編集委員会

- 編集長  
富澤 眞樹（前橋工科大学）
- 編集委員（五十音順）  
阿部 昭博（岩手県立大学）  
大場みち子（はこだて未来大学）  
柿崎 淑郎（東京電機大学）  
金田 重郎（同志社大学）  
兼宗 進（大阪電気通信大学）  
神沼 靖子（情報処理学会フェロー）  
児玉 公信（情報システム総研）  
刀川 眞（室蘭工業大学）  
辻 秀一（東海大学）  
中山 泰一（電気通信大学）  
畑山 満則（京都大学）  
樋地 正浩（日立東日本）  
深田 秀美（小樽商科大学）  
丸山 広（青山学院大学）

<sup>1</sup> 前橋工科大学  
Maebashi Institute of Technology, Maebashi, Gunma 371-0816 Japan

a) tomisawa@maebashi-it.ac.jp